

大津市長賞

きものきて モデル気分の 七五三

山下 凜夏

滋賀県大津市立平野小学校1年

【評】七五三に、とびきりかわいく、すてきなきものを着ている姿と、ここにこしているまわりの人たちの様子を想像しました。その時の気持ちをも、「モデル気分」という言葉であらわしたかっこいい作品です。
(吉永幸司)

草津市長賞

さんぽ道 コスモス見つけた おともだち 小島 翔大

滋賀県草津市立矢倉小学校2年

【評】散歩は楽しいですね。見慣れている景色の中にもいろいろな発見があります。友だちがコスモスの花を見つけ、教えてくれたのですね。友だちと一緒にコスモスの花をながめ、話はずむ様子が目に浮かんできました。
(三上昌男)

大津市教育長賞

たこ上げだ どこまでととばすか きょうそうだ 志村快之助

滋賀県大津市立小野小学校3年

【評】たこ上げにがんばるぞという気持ちでいる顔まで見えるような句になっていきます。それは、声を出して読むとより強く伝わりました。上五の「だ」下五の「だ」の強い響きが重なっているからなんだと思いました。
(森邦博)

草津市教育長賞

うちの犬 初めて冬の こせるかな 綿田 凜人

滋賀県長浜市立浅井小学校5年

【評】「うちの」と書かれていますように、その子犬は、もう家族（かぞく）の一員（いちいん）になつていて、その子犬は、もう家族（かぞく）の冬をむかえる子犬、きびしい冬にむけて心配する凜人さんのやさしい思いがよく伝わります。
(高野靖人)

草津俳句連盟会長賞

名月に 虫飛んでゆく シルエット

中清水 初奈

滋賀県彦根市立城南小学校 6年

【評】月と虫の取り合わせが素敵な俳句です。「虫飛んでゆく」には動きがあり、その虫の動きを明るく月の光が照らし、シルエットとなる。動と静。見事な対比です。メルヘンのような美しい世界が想像できます。(好光幹雄)

NHK大津放送局長賞

息白し シャトルが飛び交う 体育館

青柿 心優

埼玉県春日部市立武里西小学校 4年

【評】クラブ活動でしょうか。体育館とはいえ、「息白し」から寒さが伝わってきます。でも寒さに負けず、みんながシャトルを追ってラリーを続ける様子をうまく表現しています。「飛び交う」から元気な動きが伝わってきます。(北島雅晴)

BBCびわこ放送賞

毛糸あむ 父のマフラー 三年目

松岡 梨華

大阪府大阪市・城南学園小学校 3年

【評】手編みのマフラーは、大好きなお父さんへのプレゼントでしょう。「三年目」から、苦労しながらも一生懸命に編んでいる姿が目に見えます。優しさといじらしさも編み込んだマフラーのあたたかさも伝わってきます。(川那部隆徳)

FMおおつ賞

ふかふかの 空の海で泳ぐ いわし雲 二見 英嗣

京都府宇治市立小倉小学校 4年

【評】晩秋の真っ青な海いっぱい、たくさんのお群れが楽しそうに泳いでいる様子が想像できるいい句ですね。また、「ふかふか」という言葉の響きが、「いわし雲」にぴったりの表現になっていると思います。(北川雅士)

えふえむ草津賞

サンタさん そりのうしろに ほしがある

北山 陽葉

和歌山県和歌山市和歌山大学附属小学校1年

【評】サンタさんのそりは、こどもたちにプレゼントをくばるために、よぞらをかけぬけます。そのそりがはしつたあとには、きれいなおほしさまがキラキラ。ああ、ゆめみたいなきれいなせかいですね。
(好光幹雄)

京都新聞賞

湯たんぽが あったかいお湯 ぽぽぽぽ

勝山 世名

京都府京都市・立命館小学校4年

【評】観察力と想像力を感じる作品です。湯たんぽを用意するときの様子と「あったかい」というイメージが、「ぽ」ということばの響きやリズムとよく調和しています。寒い冬も「ぽぽぽぽ」と温かくなりそうですね。
(蜂屋正雄)

中日新聞社賞

満月を 見ながら猫も 丸くなる

加茂野 菜桜

石川県金沢市立鞍月小学校6年

【評】身近な存在である月と猫の形に注目するだけで、こんな風情のある作品ができるなんてすばらしいです。天空の月から地上の猫へと視点が変化し、空間に奥行きを感じさせるところも面白いです。
(海東貴利)

読売新聞大津支局長賞

帰り道 近くの家に 寒椿

城 茉柚花

大阪府大阪市立阪南小学校4年

【評】吐く息も白い、寒さに震える学校からの帰り道でしょうか。ふと目をやると、鮮やかに椿の花が咲いてる。それを見つけたとき、心にこみ上げてきた、何とも言えない嬉しさが伝わってきました。心が温かくなる句です。
(箕浦健司)

毎日新聞大津支局長賞

マラソンだ！とうちゃんかあちゃん 見に来いよ！ 山下 大凱

大阪府泉南市立樽井小学校3年

【評】

家族の応援はたいへん大きな力になりますね。これまでの練習も頑張ってきたのでしよう。マラソンに対する熱い気持ちや「負けないぞ」という勢いも言葉の節々から感じられます。頼もしさや力強さが込められた一句です。（西條陽之）

朝日新聞大津総局長賞

ジャンパーで ランドセルが せおいにくい 佐藤 想太

大阪府羽曳野市立高鷲南小学校2年。

【評】

冬の寒い日に、気合を入れてランドセルを持ち上げる姿が目につかびました。「せおいくい」という素直な言葉が光ります。一生懸命な様子に思わず「がんばれ」と声をかけたくなる俳句です。（弓削裕之）

産経新聞社賞

さざんかの 花びら水面に あそんでる 伊藤 羽菜

長崎県諫早市立本野小学校5年

【評】

さざんかの花びらは一枚一枚散ります。それをしっかりと観察していますね。水面にゆらゆらゆれる花びらが、まるで羽菜さんもいっしょに遊ぼうよとさそっている夢のような俳句です。（好光幹雄）

NPO法人現代の教育問題研究所賞

木枯らしが 早く帰れと 背中押す 片山 史桜

京都府京都市・京都女子大学附属小学校6年

【評】

人にたとえられた「こがらし」が背中をおすからか、寒いのに、しかも命令形であるのに、人の心の温かさが伝わります。冷たい風と暖を取れという思いやりにおされて、小走りで家路を急ぐ様子が思い浮かびます。たった十七文字で豊かな想像を生む俳句のよさを改めて教えてくれました。（杉澤周一）